



第 92 号 (年 4 回発行) 編集発行 弘前学院大学 弘報委員会 印刷所 (有)小野印刷所

2023年度 入学式挙行

4月5日(水)、2023年度 弘前学院大学並びに大学院の入学式を行いました。今年も式は、新型コロナウイルスの感染拡大を極力排除するため、ご来賓の方々や保護者の皆様の参列をご遠慮して頂き、式次第も簡素化して行われました。

院社会学部 院社会学部 院社会学部 院社会学部 院社会学部 院社会学部 院社会学部 院社会学部 院社会学部 院社会学部



学修者本位の教育へ

学長 董科 勝之

世の中は、現在、いわゆる2025年問題に突き当たろうとしています。

いわゆる「団塊の世代」800万人全員が75歳以上、つまり後期高齢者となります。2025年問題とは、超高齢化社会が訪れることで生じる雇用、医療福祉、教育などさまざまな影響のことですが、もう2年後の問題です。

中央教育審議会が2018年に「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」という答申を出しましたが、これは2018年に生まれた子どもが大学卒業時の2040年に、高等教育の姿がどのようにあるべきかを描いたものです。

問題の根源は何なのか？ 言うまでもなく、少子・高齢化の進行に歯止めがかからなくなり、社会的課題が大きく立ち塞がり、教育分野に限っても、大学だけでなく、高等学校、中学校のほか教育機関おしなべて、生き残りをかけて苦境にあります。

現在、私立大学約700校の約5割弱の大学が定員割れの状況です。大学としてはどのような生き残るかが喫緊の課題です。しかし、この「生き残り」という言い方は、いかにも、消極的な雰囲気があります。本当は、欲しい姿勢としては、積極的な方向性が欲しいところです。

位学生の成長主体のあり方へと舵を切っております。前掲の「グランドデザイン答申」では、その冒頭で「2040年の展望と高等教育が目指すべき姿」として「学修者本位の教育への転換を謳っております。

必要であると述べます。現在そして今後も、求められているのは学修成果とその可視化ですが、その学修成果はDPの達成度として表されます。このDPについて、3つのポリシーの策定とその推進に関する経緯の中で少し振り返ってみます。

中央教育審議会の答申等では、平成17年「高等教育の将来像」、平成20年「学士課程教育の構築」、平成24年「大学教育の質的転換」、平成28年「3ポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」、そして平成24(2018)年の「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」と推移してきた中で、3つのポリシーのダイナミクス・ポリシーの意義・重要性が注視されてきました。

現在、弘学は、出口の一層の強化を図る方向で、DPの点検を求めています。弘学が生き残る道です。創立137年の伝統とその誇りがかかっております。

成績発表後の十月に授与予定です。



2023年度特待生授与者

- ◆文学部 2年 板谷 隆広 3年 加納 唯楓 4年 福士さくら
- ◆社会学部 2年 木村 美月 3年 齊藤 帆南 4年 齊藤 大夢
- ◆看護学部 2年 工藤 日陽 3年 石郷岡優花 4年 横尾 裕樹



学修者本位の教育へ (学長 董科 勝之)

今年度の語学研究生プログラムは5月22日から6月16日まで実施されました。プログラム内容は日本語の授業、文化アクティビティ・体験で、本学の学生と仲良くする多くのチャンスもありました。今年初めて日本語授業の他に志喜屋先生の「日本語教育法 I・A・II A」の授業にも参加しました。志喜屋先生の学生がリニカーさんに日本語と日本文化について教える練習をする

リニカーさんは青森県内の有名なところにも行きました。弘前公園にももちろん行って、青森市にある「ねぶたの家W-RAZZE」、観光物産館アスパム、三内丸山遺跡、青森県立美術館等を

探求する機会がありました。リニカーさんは「青森県は名物の多い地球だと分かりました。」とコメントしました。観光スポットだけではなく、プログラム中リニカーさんは文学部の志喜屋先生と英文科の2年生対馬香実さんの家族とホームステイしました。リニカーさんは日本人の日常生活を経験するのはとても楽しかったと述べ、「ホームステイ先に心から感謝いたします」とのことでした。

くの勉強をしました。リニカーさんはとても良かったのでまた来年に弘前に観光で来る予定のことです。本学と聖愛中学校・高校の授業に参加できたのでリニカーさんは大学を卒業後に日本でA.L.Tになりたいと思っています。またヒロガクでリニカーさんに会いたいと思っています。



2023年度 日本語語学研究生プログラムを開催しました

研究紹介 56

青森県における特別支援学校の歩みと今後の展望

社会福祉学部 社会福祉学科 講師 川村 泰弘



私の専門は特別支援教育で、本学では主に特別支援学校の教員免許取得に必要な科目を担当しています。本誌では、これまで勤務した特別支援学校や教育行政で学んだことをもとに、青森県の特別支援学校の設置や取組の経緯について紹介したいと思います。

青森県における特別支援学校の歴史を概観しますと、明治24年に始まる「東奥盲人教訓会」、大正14年に始まる「青森盲人教育所」を起点として、まず昭和24年に県立の盲学校と聾学校が設置されました。また、養護学校においては、昭和54年の義務制を待たずに、全国でも特格的な「児童施設や医療機関併設型の養護学校」として14校の整備が進められました。併せて、この時期から訪問教育の充実や隣接施設等への分教室設置など

から、様々な取組が進められてきました。また、現学習指導要領では教育課程編成の重点として「社会に開かれた教育課程」が掲げられ、児童生徒の学びの場としての地域活用、授業への地域人材活用など、学校と地域の協働による教育活動の充実が求められています。青森県教育委員会ではこうした動向を踏まえて、平成31年に「青森県特別支援教育推進ビジョン」を策定し、今後10年間の道筋となる基本方針を示すとともに、令和5年度から全ての県立特別支援学校において、学校と地域が協働で子どもの成長を支える仕組みである「学校運営協議会」を設置しました。共生社会やインクルーシブ教育システムの構築は、障害のある子どもたちの社会参加を実現するための理念であり、方策でなければなりません。「青森県特別支援教育推進ビジョン」で示された基本方針の一つである「地域に開かれた特色ある学校づくり」の推進に向け、今後本学の研究において学校と地域の共同体による新たな教育モデル」を探求するとともに、今年度から参画している特別支援学校の学校運営協議会で、その具体的な方策を検討していきたいと考えています。

この間、我が国では、平成26年1月に行われた「障害者の権利に関する条約」への批准に即して共生社会の実現が謳われるようになり、学校教育においてはインクルーシブ教育システム構築の視点

から、様々な取組が進められてきました。また、現学習指導要領では教育課程編成の重点として「社会に開かれた教育課程」が掲げられ、児童生徒の学びの場としての地域活用、授業への地域人材活用など、学校と地域の協働による教育活動の充実が求められています。

平成19年に施行された学校教育法の一部改正によって、盲聾・養護学校は、特別支援学校として障害種別を超えた対応が可能になりました。青森県教育委員会では、この法改正や子どもの障害が重複・重複化、多様化している状況を踏まえて平成22年7月に「青森県立特別支援学校教育推進プラン」を公表し、複数の障害種別への対応や特別支援教育のセンター的機能の発揮など、各校の機能を明確化したうえで順次整備を進めてきました。

平成19年に施行された学校教育法の一部改正によって、盲聾・養護学校は、特別支援学校として障害種別を超えた対応が可能になりました。青森県教育委員会では、この法改正や子どもの障害が重複・重複化、多様化している状況を踏まえて平成22年7月に「青森県立特別支援学校教育推進プラン」を公表し、複数の障害種別への対応や特別支援教育のセンター的機能の発揮など、各校の機能を明確化したうえで順次整備を進めてきました。

挨拶は魔法?!

看護学部 看護学科 准教授 井澤 美樹子

「こんにちは」「お先にどうぞ」「頑張ってください」など、挨拶は私たちの生活に欠かせないコミュニケーションの手段です。挨拶には、相手の存在を認め、敬意を表し、良好な人間関係を築くという目的があります。また、挨拶には、相手の感情を察し、共感を示すという目的もあります。挨拶は、相手の感情を察し、共感を示すという目的があります。また、挨拶には、相手の感情を察し、共感を示すという目的があります。

さわやかな風がそよぐさせるのか？もちらんそれもあります。私の場合は、汗だくになりながらもすれ違ふたびに目を合わせて笑顔で挨拶することで、元気をもらっているように感じています。

登山で挨拶をする理由は、人と人とのつながり、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）

登山で挨拶をする理由は、人と人とのつながり、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）

登山で挨拶をする理由は、人と人とのつながり、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）

登山で挨拶をする理由は、人と人とのつながり、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）



「こんにちは」「お先にどうぞ」「頑張ってください」など、挨拶は私たちの生活に欠かせないコミュニケーションの手段です。挨拶には、相手の存在を認め、敬意を表し、良好な人間関係を築くという目的があります。また、挨拶には、相手の感情を察し、共感を示すという目的もあります。挨拶は、相手の感情を察し、共感を示すという目的があります。また、挨拶には、相手の感情を察し、共感を示すという目的があります。

さわやかな風がそよぐさせるのか？もちらんそれもあります。私の場合は、汗だくになりながらもすれ違ふたびに目を合わせて笑顔で挨拶することで、元気をもらっているように感じています。

登山で挨拶をする理由は、人と人とのつながり、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）

登山で挨拶をする理由は、人と人とのつながり、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）

登山で挨拶をする理由は、人と人とのつながり、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）

登山で挨拶をする理由は、人と人とのつながり、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）

登山で挨拶をする理由は、人と人とのつながり、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）、情報交換のため（万が一に備え多くの人に覚えてもらうため）

hug work サテライト事業への参加を通して

ヒロガクインクルーシブネットワーク 社会福祉学部 社会福祉学科3年 安田 由杏



私は、今回参加した hug work サテライト事業での経験を通して、障がいのある方への関わり方や障がい者雇用への知識を深めるとともに、それらの理解を広めていくことの重要性について知ることができました。

hug work では、弘前学院大学3号館の学生ラウンジで、手作りのドーナツなどお菓子やアクセサリーなどの販売を行いました。学生の役割としては、販売をサポートしたり、事業所の利用者の方と話をしたりすることでした。私は、初めての参加だったこともあり、利用者の方との連携が難しく、自分から話しかけることができませんでした。しかし、利用者の方から気になる商品はあるか、好きなお菓子はありますか、など尋ねられ、ようやく話をすることができました。このような経験から、障がいのある方も、特性だけでなく、その人を判断するのではなく、それぞれ個性があるため、個性を意欲した関わりが大切であると学ぶことができました。

hug work では、弘前学院大学3号館の学生ラウンジで、手作りのドーナツなどお菓子やアクセサリーなどの販売を行いました。学生の役割としては、販売をサポートしたり、事業所の利用者の方と話をしたりすることでした。私は、初めての参加だったこともあり、利用者の方との連携が難しく、自分から話しかけることができませんでした。しかし、利用者の方から気になる商品はあるか、好きなお菓子はありますか、など尋ねられ、ようやく話をすることができました。このような経験から、障がいのある方も、特性だけでなく、その人を判断するのではなく、それぞれ個性があるため、個性を意欲した関わりが大切であると学ぶことができました。

hug work では、弘前学院大学3号館の学生ラウンジで、手作りのドーナツなどお菓子やアクセサリーなどの販売を行いました。学生の役割としては、販売をサポートしたり、事業所の利用者の方と話をしたりすることでした。私は、初めての参加だったこともあり、利用者の方との連携が難しく、自分から話しかけることができませんでした。しかし、利用者の方から気になる商品はあるか、好きなお菓子はありますか、など尋ねられ、ようやく話をすることができました。このような経験から、障がいのある方も、特性だけでなく、その人を判断するのではなく、それぞれ個性があるため、個性を意欲した関わりが大切であると学ぶことができました。

2023 ヒロガク 教養講話の報告

文学部 英語・英米文学科 講師 スティフィン・マククウィー

2019年春、青い目の人形に会うために、弘前学院大学に足を踏み入れた。大学に保存されているエリザベス・ハットンと、青森市で新しく見つかった人形を含めた8体が92年ぶりに同窓会を開く、という言葉につられて「外人宣教師館」の見学をした。さらに札幌堂のステンドグラスやパイプオルガンもどうぞ、と言われて中に入った。今思えば全くのミスター気分のお客である。

2019年春、青い目の人形に会うために、弘前学院大学に足を踏み入れた。大学に保存されているエリザベス・ハットンと、青森市で新しく見つかった人形を含めた8体が92年ぶりに同窓会を開く、という言葉につられて「外人宣教師館」の見学をした。さらに札幌堂のステンドグラスやパイプオルガンもどうぞ、と言われて中に入った。今思えば全くのミスター気分のお客である。

今年度の教養講話は、弘前学院大学学長兼学科長から始まり、新しい国づくりそのコトバ、中国在住宣教師館の著作と幕末明治の日本」という演題で講義を頂きました。日本が新しいアイディアを導入したときに直面した困難と、現代日本語で用いられるようになった単語の数を学生に紹介しました。

今年度の教養講話は、弘前学院大学学長兼学科長から始まり、新しい国づくりそのコトバ、中国在住宣教師館の著作と幕末明治の日本」という演題で講義を頂きました。日本が新しいアイディアを導入したときに直面した困難と、現代日本語で用いられるようになった単語の数を学生に紹介しました。

今年度の教養講話は、弘前学院大学学長兼学科長から始まり、新しい国づくりそのコトバ、中国在住宣教師館の著作と幕末明治の日本」という演題で講義を頂きました。日本が新しいアイディアを導入したときに直面した困難と、現代日本語で用いられるようになった単語の数を学生に紹介しました。

今年度の教養講話は、弘前学院大学学長兼学科長から始まり、新しい国づくりそのコトバ、中国在住宣教師館の著作と幕末明治の日本」という演題で講義を頂きました。日本が新しいアイディアを導入したときに直面した困難と、現代日本語で用いられるようになった単語の数を学生に紹介しました。

ナルミ医院 院長 鳴海医師が「将来の目標や夢を実現するために必要なこと」という演題で学生たちに健康についての講義を頂きました。喫煙の危険性と、砂糖や塩を過剰に摂取することの問題について説明しました。

ナルミ医院 院長 鳴海医師が「将来の目標や夢を実現するために必要なこと」という演題で学生たちに健康についての講義を頂きました。喫煙の危険性と、砂糖や塩を過剰に摂取することの問題について説明しました。

ナルミ医院 院長 鳴海医師が「将来の目標や夢を実現するために必要なこと」という演題で学生たちに健康についての講義を頂きました。喫煙の危険性と、砂糖や塩を過剰に摂取することの問題について説明しました。

ナルミ医院 院長 鳴海医師が「将来の目標や夢を実現するために必要なこと」という演題で学生たちに健康についての講義を頂きました。喫煙の危険性と、砂糖や塩を過剰に摂取することの問題について説明しました。



開放講義 教養演習① 「日本語教育概論」を受講して

小野 睦美

2019年春、青い目の人形に会うために、弘前学院大学に足を踏み入れた。大学に保存されているエリザベス・ハットンと、青森市で新しく見つかった人形を含めた8体が92年ぶりに同窓会を開く、という言葉につられて「外人宣教師館」の見学をした。さらに札幌堂のステンドグラスやパイプオルガンもどうぞ、と言われて中に入った。今思えば全くのミスター気分のお客である。

2019年春、青い目の人形に会うために、弘前学院大学に足を踏み入れた。大学に保存されているエリザベス・ハットンと、青森市で新しく見つかった人形を含めた8体が92年ぶりに同窓会を開く、という言葉につられて「外人宣教師館」の見学をした。さらに札幌堂のステンドグラスやパイプオルガンもどうぞ、と言われて中に入った。今思えば全くのミスター気分のお客である。



2019年春、青い目の人形に会うために、弘前学院大学に足を踏み入れた。大学に保存されているエリザベス・ハットンと、青森市で新しく見つかった人形を含めた8体が92年ぶりに同窓会を開く、という言葉につられて「外人宣教師館」の見学をした。さらに札幌堂のステンドグラスやパイプオルガンもどうぞ、と言われて中に入った。今思えば全くのミスター気分のお客である。

2019年春、青い目の人形に会うために、弘前学院大学に足を踏み入れた。大学に保存されているエリザベス・ハットンと、青森市で新しく見つかった人形を含めた8体が92年ぶりに同窓会を開く、という言葉につられて「外人宣教師館」の見学をした。さらに札幌堂のステンドグラスやパイプオルガンもどうぞ、と言われて中に入った。今思えば全くのミスター気分のお客である。

英文学会の初 American Day への参加

文学部 英語・英米文学科 教授 エドワード・フォーサイス

6月25日(日)に、文学部の学生18名と教員2名が三沢市のアメリカンデー祭りに参加しました。英語・英米文学科が、このアメリカ文化を体験し、アメリカ人にとって英語を練習するための旅行を企画・主催しました。アメリカンデーでは、学生たちがアメリカン文化を体験するチャンスが沢山ありました。

フェスティバルは、ハーレーデビルドソンのオートバイと古典的なアメリカの車のパレードから始まり、米軍車カローガードと海軍の船員がアメリカの50州の旗を掲げていました。三沢米軍基地内から様々なグループ団体もパレードに参加し、基地の大型消防車、救急車、軍関係の車も道に連なりました。パレードを観ながら、まさに「アメリカだ!」と感じました。

学生たちは色々なアメリカの食物を食べるチャンスがありました。例えば、ブルドポークサンドイッチ(バーベキュー豚肉)

文学部で初イースターパーティーを行った!

2023年5月19日、大学でイースターパーティーを行った。学生61名、教員5名が参加した。

3つのアクティビティ、イースターにちなんだフードやドリンクで楽しい時間を過ごした。はじめに、石垣先生がイースターについてお話ししてくださいました。イースターとは十字架にかけられて亡くなったイエス・キリストが、3日後に復活したことを祝うお祭りである。そして、イースターの日は、春分の日後の最初の満月の次の日曜日のため、その年によって日時が定まっています。ということを知ることができた。

1つ目のアクティビティは、ガラス瓶の中のアメの数を当てるゲームだった。アメの数が一番近かった学生は、その瓶をもらうことができた。

2つ目のアクティビティは、イースターエッグを入れるためのバッグをデザインした。学生一人一人が思い浮かべるイースターについてのイメージを絵や文字にして書き表すことができた。どの

4つ目のアクティビティは、イースターエッグハントである。

バッグも個性豊かで素敵だった。アメリカでイースターの時期に食べられるハムを使ったサンドウィッチを食べた。イースターハムは伝統的なアメリカの休日のメインコースとして、感謝祭の七面鳥に次ぐものである。このことから、普段あまり触れることのできないアメリカの食文化について触れることができた。とても良い体験になった。



父母と教職員の会 総会報告と年間行事のお知らせ

六月三日(土)、本学にて二〇二三年度父母と教職員の会総会が開催されました。総会では、佐藤和博会長が議長となり、以下の議案について話し合われました。

- 第一号議案
 - 二〇二二(令和四)年度活動報告及び収支決算報告について
- 第二号議案
 - 二〇二三(令和五)年度活動計画(案)及び収支予算(案)について
- 第三号議案
 - 役員改選について

なお、役員については次のとおり決定されております。
会長 佐藤 和博(留任)
副会長 西川いつ美(新任)
監事 加福千枝子(新任)



学委員会が約300個のエッグを1号館の2階から4階に隠し、生徒はそれを探した。その中には金色のエッグ、半分が金色のエッグ、カラフルなエッグがある。金色のエッグを見つけることができた学生には、豪華景品が与えられた。1年生が入学してから、初めてのイベントだったため、楽しんでもらえるように話し合いを重ねながら、イベントに臨んだ。学委員会にも新メンバーが加わり、より一層賑やかになった。苦労したと感じた点は、イースターエッグハントのエッグを隠すことだ。約300個ものエッグを手分けして、学校中に隠すことはかなり大変だった。そして、イースターパーティーの司会を務めたことだ。初めての司会だったこともあり、始める前から緊張していたが、周りの方々のおかげで無事終えること

人事異動

- ◆新任紹介
 - 文学部 教授 奥野 武志
 - 宗教主任 講師 石垣 雅子
 - 社会福祉学部 講師 川村 泰弘
 - 看護学部 教授 中尾八重子
 - 事務職員 アドミッションセンター次長 平川 昌史
 - 情報メディアセンター 後藤 優希
- ◆異動
 - 図書館 対馬 利那
 - 総務課長 下山由香里
 - (看護学部より) 川村 香織
 - 情報メディアセンター長 (アドミッションセンターより) 幸山 勉
 - 看護学部学生・就職課 (アドミッションセンターより) 中田麻衣子
 - アドミッションセンター (図書館より) 成田ひらり
- ◆退職
 - 文学部 教授 入江 英弥

2023年度 新学部長・学科長・主任紹介

- ◆文学部
 - 学務主任 井上 裕太
 - 学部主任 スティーン・マックウイニー
- ◆社会福祉学部
 - 学部長 小川 幸裕
 - 学科長 高橋 和幸
 - 学務主任 藤岡 真之
 - 学部主任 葛西 久志
- ◆看護学部
 - 学部長 土屋 陽子
 - 学科長 高田まり子
 - 学務主任 館山 光子
 - 学部主任 宇田 宗弘

弘前国際交流(こども)野球フェス

5月13日(土)に本学の英語・英米文学科学生2名がチームブレネット主催と弘前市スポーツ振興課、JICA東北、JICAニカラガアで後援名義となった「弘前国際交流(こども)野球フェス」に参加しました。ニカラガア野球選手が聖愛高校で地球の子供たちとは聖愛の野球選手と国際交流と野球練習をしました。英語・英米文学科3年生成田終さんと2年生櫻田勇人さんは通訳者として、参加しました。聖愛高等の野球監督者たちから本学の学生のサポートについて感謝のお言葉を頂きました。今後同じ様なイベントがあれば本学の学生が再度対応します。参加した学生の感想文は以下にあります。



私は通訳という立場で今回の活動に参加しました。最初は若干の不安と、ワクワクを胸に抱きつつ始まりました。言語の通じない環境で私たちはどう行動するのかを考えるとどう行動していいかわからず、緊張の時間も少しありました。しかし、緊張の方も溶け、子供達、選手達は言語が通じなくても、ジェスチャーなどで、コミュニケーションを取っていました。この時私は、その場にいた全員が一つの円になっていたような気がしました。言語という大きな隔たりがあってもかわらず、活動が終わってみれば、辺りは笑顔で溢れていました。実は私も野球を10年続けていたので、今回の活動では、通訳

自分の夢を実現するために

文学部 英語・英米文学科1年 柴田 道羅



私が英語を好きになったのは高校時代の英語科の先生のおかげである。今思えば中学英文法から丁寧に学び直しをさせてくれたからだと感じている。とても感謝している。それから大学で学ぶことを英語に絞って、こうして今弘前学院大学に通っている。大学の授業はどれも興味深いものが多い。例えば、キリスト教への理解を深める「キリスト教Ⅰ」や、「紅茶」「スポーツ」、

「バブ」などのイギリス文化について学生がプレゼンテーションを行い互いに理解を深める「欧米文化概論A」や英語の音などを分析する「英語学概論A」などがある。英語をコミュニケーションのツールとして4技能を向上させるだけでなく、異文化について教養を付けさせてくれるのが私の学科の強みだと思う。私の将来の夢は、市役所職員か外資系企業に就職することである。どちらにするか迷っているが、どちらの仕事に就いても日本と外国の架け橋になれるような人になりたいと思っている。そのために、英語に関する

講義を受けて、課題を提出して満足するのではなく自主学習にも力を入れていきたいと思う。今のところは、動画配信サービスを楽しんだり、音楽を聴いたり、日常会話で使用するフレーズを覚えたりする事に活用していきたいと考えている。

さらに、大学生活はサークル活動や高校の時に出来なかったアルバイトをするなどして充実させたいと考えている。私は現在、インターナショナルクラブに所属している。活動内容としては参加者がやりたい活動を提案したり、海外のボードゲームを通して楽しみながら英単語の語彙を増やしたりフレーズを覚えたりと非常に有益な時間を過ごすことが出来る。

大学生生活の目標

文学部 日本語・日本文学科1年 伊藤 寛太



弘前学院大学に入学してから、三ヶ月が過ぎようとしています。私は、実際に大学生活を送ってみて、頑張りたいと感じることが二つあります。一つ目は、日本語や日本の文化について学びを深めることです。そして、もう一つは、自己管理をすることです。これらを目標にして、大学生活の四年間を送りたいと思っています。

私が高齢な祖母と会話をしていて、言葉に違いを感じたから

です。同じ日本語でも、言葉やイントネーションが違うことに驚き、興味を持ちました。そして、実際に青森県に住み、青森県特有の言葉に触れてみたいと思ひ、弘前学院大学に入学しました。大学の授業では、様々な日本の文化や日本語について学んでいます。文化は、時代や地域によってそれぞれの特徴があります。高校では、習うことができないような日本の文化を専門的に学んでいて、とても楽しいと感じています。また、地域特有の方言や日本語の音声の観点から学ぶ授業があり、日本語とはどのようなものなのかという学習にも力を入れていきたいと思ひます。私が知らない日本の文化はまだたくさんあ

アルバイトに関しては、主に接客業などを経験したいと考えている。対応する側に回ることで従業員の大変さと働くことの大変さを同時に経験することが出来ると思うからだ。欲を言えばTOEICなどである程度の英語力を証明することが出来たら英語を使用するアルバイトに挑戦したいと思っている。

終わりに、大学生活の4年間は未来の自分が過去の自分を恨まない様な過ごし方をし、4年後には英語力なら誰にも負けないという自信と自分が納得する内定先を持つている状態になりたいと思う。

ります。自分の知識の幅を広げ、深めていけるように、一生懸命授業に取り組みたいと思ひます。

大学生活では、自己管理をすることが大切になります。どんな授業を履修するかを選ぶことができたり、期限はありますが、どのタイミングでレポートを提出するかを自分で決めたりすることが出来ます。また、一人暮らしを始めると、生活の一つ一つを自分でどのようにするかを決め、いつ行くかを自分で決めることが出来ます。高校生の時とは違い、行動のすべてを自由に行うことが出来ます。また、生活すべてを、自分の力で

な生活を送ることは、自分の力で生活を行わなくてはなりません。自由に生活を行うことが出来るため、自分で自分を管理する必要があります。大学生活の質を高めるには、どうすればいいのかを考えながら、怠けないように

アルバイトに関しては、主に接客業などを経験したいと考えている。対応する側に回ることで従業員の大変さと働くことの大変さを同時に経験することが出来ると思うからだ。欲を言えばTOEICなどである程度の英語力を証明することが出来たら英語を使用するアルバイトに挑戦したいと思っている。

新入生の希望と夢

一歩ずつ

社会福祉学部 社会福祉学科1年 水上 芽育



私は将来、社会福祉士の資格を取得し、「話す」ことでクライエントの潜在能力を引き出せるような人材になりたいです。支援方法はケースバリエーションですが、私は「話す」支援が最も重要であると考えています。

このような考えに至ったのは、自身の経験からでした。私は、考えすぎてしまう性格があり、自分のことよりも周りの幸せばかりを考えて無理

をして、自分の体が悲鳴をあげていることに気づけませんでした。そんな私の不調に気付いてくれたのは高校時代の養護教諭でした。

あの時、声をかけて頂けなかったら、今の私はなかったかもしれない。私の体調不良は心身の栄養失調が原因でした。この経験により、自分のことを大切に、決して無理はしない、一人で抱え込んではいけないのだと学びました。そして、私の性格を変え、抱え込む前に、信頼出来る人に、少しずつ不安な思いを話すことが出来るようになりました。

また、普段平気そうに笑っている人も、実は問題を抱えているかと思ひます。このように悩む人達にまず関心を向け、声をかけ「話す」きっかけをつくるのが大事だと考えます。クライエントと信頼関係を築くことができれば、クライエントの方から積極的に話をしてくれるようになります。その上で、その人が持つ魅力を

反省から夢に

看護学部 看護学科1年 関川 爽来



身体的にも精神的にも支えることができる看護師が私の夢です。高校生の時にこの看護師像を決めてから、ずっとそんな看護師になりたいと心から思っていました。

看護師という職業に憧れを持った理由は、高校3年間の部活動です。3年間バスケットボール部マネージャーとして活動をして、反省が多かったなと感じます。テーパーを巻くこともできなく、怪我をした選手のトレーニングの

えられたら、どんなことが選手たちにとって苦しかったかがわかっていたら、精神的に支えられたのと思ひました。そんな部活動での経験から、看護について勉強してみたいと思ひました。マネージャーとして活動した期間の反省や経験が、看護について学んでみたいという気持ちを大きくしていると思ひます。

ある先生が実習での学生の1番の役割は患者さんのお話を聞くことだと教えてくださりました。専門知識がまだない学生は、患者さんのお話を聞くことが大切だと話してくださいました。また、看護師は経験年数が長くなるほどこれらができなくなるとも教えてくださりました。経験が多くなると看護師自身の価値観

「どうして私だけ辛い思いをしているのだろう。相談しても、返ってくる言葉に余計傷つくのが怖い。」などという理由が、自分から支援を求めることを諦めてしまうのではないかと考えます。自分で塞ぎ込んでしまうと、孤立や生きづらさを感じるようになります。

また、普段平気そうに笑っている人も、実は問題を抱えているかと思ひます。このように悩む人達にまず関心を向け、声をかけ「話す」きっかけをつくるのが大事だと考えます。クライエントと信頼関係を築くことができれば、クライエントの方から積極的に話をしてくれるようになります。その上で、その人が持つ魅力を

や患者さんへの決めつけが原因となってお話しをする事が難しくなる事もあると話されていきました。だからこそ、学生のピュアな姿勢やフレッシュな対応が患者さんにとって大きな力になるのだと、大事なことを教えてくださりました。このお話しを聞いて、私の部活動での役割は選手の話しを聞くことだったんだと思ひました。このお話しを聞いてやっとな精神的に支えることがなんなのかを明確にできたような気がしました。

これから看護師を目指す中で私が一番大切にしたいことは、身体的にも精神的にも支える看護をするということです。反省から夢に向かうためにも、これからの大学生活で専門知識を学び、傾聴スキルを上げていきたいと思ひます。

